

文武両道

北海道

砂川錬心会

中学2年 平川 野々花

「錬心館の稽古に行きたい。」

そう、思い始めたのはいつ頃からだろうか。

中学生になり、通学片道二時間弱、宿題の量も倍以上。入学したての頃、勉強はすごく難しく、周りの子は知らない子ばかりで辛かった。それでも学校の剣道部に入った。想像はしていたが、予想以上に部活と錬心館の稽古と勉強の両立は難しく、すべてが中途半端になってしまっていた。結局、錬心館には一週間に一、二回、小一時間ほどの練習が限界だった。行けなくなって、分かったことがある。実は私は錬心館での稽古が好きで、その厳しい稽古を共に頑張ってきた仲間がとても大切だ、ということ。皮肉なことに、稽古に行けなくなって初めて分かったことだった。

疲れ切っていたある日、重い足取りで錬心館に行ってみたらなぜか気持ちが軽くなった。不思議と、今まで嫌いだったはずの剣道も楽しく感じた。長い間一緒に過ごしてきたから、道場の空間や先生も含め、仲間の存在が私に安心感を与えてくれていたのだと思う。それからは毎日、錬心館の稽古を求めていった。

しかし、勉強と剣道の両立が難しい中で学んだことも多くある。第一に、時間の使い方だ。通学時間が長いことを生かしてその間に、宿題を済ませる、そうすることで長い通学時間も無駄にならない。これも錬心館の稽古に参加して心機一転したい気持ちからである。

中二になった今、私は時間調節も少し得意になり、錬心館の稽古にはほぼ毎日最初から最後まで参加できている。部活は、学校があつて錬心館の稽古がない、土曜日に参加している。中高一貫校なので部活では高校生の先輩とも剣を交えることができる。中学生も今まで一緒に稽古をしてきた錬心館の子たちとは違う剣道をするのでそこから学ぶものも多々ある。嬉しいことに部活の先輩が錬心館の稽古に興味を持ってくださり、札幌から電車に乗って一人で錬心館に来た。錬心館の剣道が認めてもらえた気がして嬉しかった。

更に、私の学校には外国人の留学生が部活体験に来ることもある。去年は、五十名ほどの中国人が剣道体験に来た。私は、当然会話する手段もなく、言葉の通じない初心者の子たちに、剣道を教えるのは不安でしかなかった。しかし、言葉でなくても身振り手振りで通じ合えるものがあり、剣道指導は楽しかった。

「広く人類の平和繁栄に寄与せんとするものである」剣道修錬の心構えを思い出した。剣道は言葉を超えて人をつなぐだろう。

さて、砂川錬心館の稽古を振り返る。まず、部活とは比べものにならないほど、稽古は厳しい。時には、稽古が苦しくて苦しくて嫌になることもあるが、それに耐えて乗り越えることで自信に

なる。考えてみるとそうした厳しきは、私自身の学習に向かう姿勢や、もっと言うと生き方までにも、大きな影響を与えてくれている気がする。「粘り強さ」「素直さ」は剣道を通して身につけた私らしさだと思う。だからこそ、錬心館の稽古に参加すると自分自身を取り戻せるような心地よさがある。小さい頃から暗唱し、呪文のように唱えてきた剣道の理念だが、今やっとその意味が理解できる。剣道を通して学んだことは、剣道がただ強くなり勝てば良い、ということではない。「正しく真剣に学ぶこと」「真義を重んじ誠を尽くすこと」「謙虚に自分の弱さを受け止めること」「何事にも一生懸命取り組むこと」これらも、剣道を通して学んだことだ。私はそんな砂川錬心館で剣道ができることを、今、とても誇りに思っている。

文武両道。これからも真っ直ぐ剣道に、勉強に、そして自分に向き合っていこうと思う。

いずれ海外に行くこともあるだろうから素晴らしい「剣道の理念」を世界中に広めたい。

The Concept of Kendo The concept of Kendo is to discipline the human character through the application of the principles of the Katana.